

カマグのアスファルト・コンクリートに対する影響について

アスファルト・コンクリート・テストピース（供試体）を一定期間試験液に浸漬し、その後、マーシャル安定度試験により各々の強度を調べた。

【方法】

1. マーシャル安定度試験用供試体の作製

- ①密粒度アスコン（13）（マーシャル試験に対する基準値；アスファルト舗装要綱による）の処方に従って、 $\phi 10\text{cm}$ 、厚さ 60cm の円柱型の供試体を作製した。
- ②混合温度は 155℃、締め固め温度は 145℃で行った。
- ③上記供試体作製後、マーシャル試験方に従って、浸漬前の重量及び厚さを予め測定した。

2. 浸漬試験液はカマグ、水道水、塩化カルシウム水溶液の 3 種類とした。カマグ、塩化カルシウム水溶液の濃度はいずれも 30%とし、3 種類の溶液に供試体 3 個を各々 35 日間浸漬した。

3. 浸漬終了後、各供試体外側の水分を拭き取り、マーシャル安定度試験を行った。

4. 試験機関

日油(株)

【結果】

試験溶液	安定度 (kg/f) ※1
水道水	9 1 3.4
塩化カルシウム	1 0 0 2.8
カマグ	1 0 2 8.1
基準値※2	5 0 0 以上

※1：供試体が破壊されるまでに示す最大荷重

※2：アスファルト舗装要綱によるマーシャル試験に対する基準値

【考察】

35 日間の試験液への浸漬では、アスファルト・コンクリートに対するカマグの影響は無かった。



日本工機株式会社